

昭和四年三月十日招集（第五号）
第一回市議會定例会會議錄

熊山市議会第一回定例会会議録(第五号)

昭和四十二年三月招集

三月十八日(土曜日)

一 議事日程(第五号)

第一 行政一般通告質問

午前十時三十八分開議

議長(田中祿郎君) 本日出席議員数 二十四名

こゝより第一回市議会定例会第五日の会議を開会いたします。

日程第一通告による行政一般質問を行ないます。

かわて御通知いたしましては済み切リ三月十六日正午まで提出ありました議員及びその順序はお手元に

配付しておりてあります。なほ、この際申し上げます。
通告質問者は以上とおりであります。他に関連質問等御発言がある方もあらうかと思ひますが、本日は通告質問者のみの発言といたしますので、御了承下さるようお願いいたします。

発言の時間は申し合わせ協定のとおり再質問より十分以内といたします。こゝより順序により発言を願ひます。

三二番議員 三沢節君

(三二番議員登壇) (拍手)

三二番 (三沢節君) 質問、前に一言お断わりしておきたいと思ひますが、論旨の整理がまだ届いておりません。非常に間違つたことを申します。かもしません。聞えづらい面もあるかと思ひますが、その点よろしくお聞

を願いたいと思います。

逝夫 三十余年私も農業をやつて参りました。

私が昨今、三つまでも農村の姿がかわつたという二つのことに驚かされるものでございます。

百姓や長男に生れた者はどうしても跡をつがなければならぬという私たちがやう当時のことを思い浮べますと、まことに今う姿というものがかわつてゐる。

ごく自然に狭い土地に人がみつゐていた私どもでござい
ます。一かゝりやう当時狭いながらも人がみつゐてお

りながら若い夫婦があらやう田にも、こちらやう田にも見られる。明かるい田園でいつも一緒に働ける喜びを感じてゐたものでございまして、それが今日では

若い青年もまた中堅層の人たちもずいぶん減つてしまつた。働く人々や老令化、また女性化したともい

いたしております。

三ついつた事実を調べて見ますと十年前における農家人口と現在、農家戸数、人員を比較いたしますと大いにかわりのないでございします。

一かーながら毎日農業について働いておるところ、いわば就業人口については約二割五分、減少となつております。そつて現在就業してゐる人口の半分以上約六割近くが女性という姿でございします。

これは専業農家が著しく減少し、兼業農家特に第二次兼業農家の増加のためでございします。

徳山市におきましては農家の平均反別は六・五アールという小々なものでございします。特に稲作を中心とした経営でございします。三ついつた経営ではどうい経済、高度成長、波に乗った他産業に所得

う落ちるうは奇然でございます。

言いかえれば百姓はやつていらぬ。生活に追いつく所
得がない。こついうううな感にがいたすのでござい
ます。ニうううな現状を思いまして今後十年先を
見通しますと、果たして私どもが自立経営の農家と
してやつていけるだろうか。或いは経営の近代化が推進さ
れるであろうか。いささか不安にかられるものであります。
こつ考えますとどうしても農家の生産所得をふや
そうして立派な後継者の育成さらに嫁の問題の解
消をはからなければならぬと存ずるのでございます。
幸いにして市長さんはその三つの方針の一つとして産業
の振興を取り上げておられます。それに伴つて担当
課におきましても深にお考えをお持ちになると察す
るのであります。従いまして以下五点についてお尋ね

申し上げたいと思ひます。

まず第一点といつて、酪農の振興を取り上げて見ます。

御承知のように牛乳は房州においては早くから導入されてゐる。かつては牛王国として、その名をなしたときもあつたのでございます。

当時は一二頭しか飼育していませんで、いわゆる子牛を飼育して他県に売る。そういう酪農経営がだんだんと聞いております。一か一そういつた他県もほとんど需要が満ちたまゝで、従つて房州の酪農も今は搾乳へと切りかわつてゐる現状ではないかと思ひます。そういたしますと自然に一頭、二頭、搾乳では酪農が安定経営というものができません。従つて現在酪農家の小屋をながめますと大体三頭乃至四頭

つなびつておきます。従つて、その飼料も前々ことを思
ひますと倍加しておきます。

一か一ながら、その飼料のほとんどが、いわゆる購入飼料
に依存してゐるが現状であるのでございます。

ニう一た観点からどうしても、この飼料を自給しなけれ
ばならない。聞くところによりますと、一頭当り、草地
の面積がわずかに一ヘクタールと聞いております。

現在、館山市におきまして、二千四百頭の乳牛が飼育
されてゐるようでございますが、この二千四百頭の自給
飼料として、十分な草地造成こそ、本当に必要欠く
べからざる点だと思つてございます。

ニう一た観点から、市といひましては、いかんしてこの草
地の造成を計画になつてゐるか、この点に対してお伺ひ
申し上げたいと思つてございます。

第二番目に園芸の振興でございます。第一点といたしまして、集荷加工場の設置を考えるものでございます。御承知のとおり、毎年うように寒波のために夏みかんが落ちていきます。

本当には打はだしの数量のようになっております。特に本年は雪に見舞われまして、そうハ、九割が落ちてしまふ。何う役にも立たなくなっております。

かつて夏みかんを植え付けるときに果の指導員は夏みかんは適地性がある。労力もかからない。一かも量目がある。そうして、何時期として一番品切のときである。こういう果樹が一番適していると非常に奨励されて、これを植えたものでございます。

それが現在市内に六十町歩以上も植えられておる。でございます。こういうたくさん、夏みかんが一カ年

間、丹精、かいも口く無珍にも放置されるままとは、
実に情けない次第でございます。さらに農業構造地
区として取り上げられまいないちごでございすが、その
三分の一近くは、ジャム用として売るわけです。まことに
安く手数料、運賃にも満たない現状でございます。
昨年度において私が館野支所で調べたジャム用とし
て出荷した数は館野地区でもなんと一万九千キロに
上っております。これを全地区に合計して見まいた
ら、実に三万キロを突破するうではないかと推察され
るうでございます。

こーい、面者考え合わせますと、近隣の三芳村等と入れ
ますと、ここに加工場を設置して、こゝ死んでおるところの品
物を十分に処理していただくならば、より以上の所得が得
んでくるうではないかと考えるのであります。

この点に対して市当局も考えをたどらないと思ひます。
次に二点といひまゝでは、市営市場・特に青果市場
の設置のことでございます。

農業所得増加をはかうとすることは、一つに生産の拡
大でございます。また、生産物の販売方法が適正で
あるか、いわゆる流通機構の整備が望まされてき
ます。――そうして現在はその中心をなすものは農協
でございます。

幸いにして昨年大村農協が統合いたしまして大規模
組織強化になりました。今後共業化につきます。こ
も共同販売にいたしまして、農協を主体といひま
す。――大いに実績が上がつてくることを信じて疑わ
ないでございます。

――農協を通さずに個々に地元の商店に或は

市場に出すものが相当量ありますので、こういう農産物につきましても、強固な市営市場の設立を見ましても、館山市の農産物の価格の安定、消費者の需要にこたえらるる様に、念願するものでございます。さらにまた現在、市場が三つございまして、けれども、この三つを統合して、これをかえるべき考え方もございますが、いづれにしても、強固な青果市場を設立することと切に望んでゐる次第でございします。第三番目といたしましては、農村の有線放送に対する市の考え方でございします。

現在、農協としては六カ所に開設してあります。もちろん、これは広域的に使用されて、例えば、教育いろいろな話、合いう結果と、或いは農業指導、或いは市役所、農協、学校、各種団体等に伝えごと。

そういうものを故保によつてすみやかに各家庭に流れて
あります。今まで文書で連絡してありまして手数料
料もほとんどなくなりまして農家といひましては切手
も切らない。これが伝達機関になつておるわけでござい
ます。ところが、こゝろはこゝろの施設も耐用年数と
いふものがございます。大蔵省の減価償却資産の
耐用年数に関する条例によりますと、十年と定めて
あります。また別に郵政省の有線放送電話に關
する法律によりますと、許可有効期間というものは
五カ年間となつてあります。一かゝるに業務を
行ないたい場合には期間満了の前三カ月乃至一カ
月間の間に有効期間の延長の申請をすること
になつてあります。こゝ際、郵政大臣は設備の耐用
年数、電電公社の電話の普及状況さらに公益面等

諸般の事情を考慮いたしまして、延長の可否、その期間を定めるようになっております。ところが大蔵省の省令に基く耐用年数は、実際には調査するときの耐用年数とほぼ合致するものが通例だそうでございます。

そういたしますと、大体十カ年たつと作りかえなければ許可が得られないというのが考えらるうでございます。従いまして、本年度九月、館野支所にある有線放送が一応許可でき得るかでないか、段階でございます。従いまして、各支所もどうしても、そういった耐用年数ができますと、だんだんと新しい施設に切りかえなければならぬということが起こってくると思っております。ちなみに、館野の支所で現在、放送施設とほぼ同様なもの、これは見積り確定ではございませぬ。がある程度、見積りをとも願いたところ、大体一

万九千円から二万円、個人負担がかかるだろう。
現在、四百三十余戸ありますが、一戸の負担が大
体一万九千円から二万円見当ではないか。そのうち
有線の水資金として六千円各家庭ありますので
一万三千円乃至四千円程度になります。そういた
ますと現在の農家の所得工合として今までで
四百三十余金戸が加入できるかどうか。あまり数
少むいとまた設置の基準に届きません。
でき得べくば金戸加入の線にぞうて再び新しい施
設に切りかえてその業務の施行を念願するも
であります。

こつうのこととを考えますと、市当局といふまゝでも、やはり
農村のこつうの施設に對して幾分なりとも御負担
願ひまゝて公益性をもつて農村の文化の向上に尽

くーたいと思うのでございますが、果たして市御意見
見はつかぬものでございましょうか。お伺いいたいた
と思います。

最後に簡単に農業構造改善地区に対する今
後、市当局の指導についてお尋ねいたします。
館山市の初め指定を受けまして山本、安布里地区は
御承知のように一応の基盤整備を終ります。
暗渠排水工事も完了します。さらに近代施設、
導入も終つて二カ年間で共同耕作も大体順調
に進んでおります。

そうしてたんぼには白いハウスが破打つております。
山にはみかん園が枯死して一躍先進地として脚
光をあびておるよう打感トがいたします。

一から打ちから今後換地処分によつて起る問題は

どういうものがありますか。はっきりとした線が打ち
 出されてはいないと思います。個々の所有になつて
 各人が非常ににはげみがあると思います。一か一ながら
 反面におきまして今までの共同耕作懸あるいは
 共業化ということが果たして今後維持できるか。
 聞くところによりますと農協へう委託耕作ということ
 も考えておるようでございますが、二ヶ点に對しまして
 市当局はどのように指導されますか。或いは今後う
 いちごう栽培方法、みかんう栽培方法についても市
 当局としてどういふような方法をもつて御指導
 いたしますか。二ういった点についてお伺い申し上げたい
 と思います。

以上五点につきまして、要点がはっきり飲み込みなかつ
 たかもしれませんが、御懇篤なるお答えを願ひたいと

思います。(拍手)

(市長職務代理者助役 登壇)

・市長職務代理者助役(小島武男君)ただ今、三三番議員さんの御質問でござりますが、私から一応お答え申し上げたいと思います。

近代的農村におきまして農家人口が非常に減つてゐるという傾向は御意見見うとむ)でございまして常に私ども皆さんとともに頭を痛めてゐる点でございます。これは、いふならば現在、う時勢が流れて申しますか、いわゆる経路格差、こういうものがやはり中心になつて所得が多いところに流れていくというところの結果でございまして、館山市が、最近人口が減つてくるという傾向もそれを物語つてゐるものと思ひます。非常にこれはとうとうと流れる時勢に影響することではございまい

てただ市だけで簡単にこれを阻止するということとは
非常に困難であらうと思ひます。要は流れてい
く人たちが地元にゐるても相当な経済が保てると思
ひます。状況によれば、その傾向は相当抑えらると思
ひます。で、いふならば、館山市の全産業、全機構
がそういう点に注がれてゐるといふことも、いふと思
ひます。でございますが、ただ今申しまゐるに、これは総合的に
行なわなければならぬ点でございます。常々考えて
はあります。もう、なかなか実行が伴うていかないといふ
悩みがあるわけでございます。御質問の第一点でござ
います。

酪農振興についてでございますが、御指摘のよう
に酪農の大きな長い歴史と伝統を持つてゐる地区で
ございまして、農家の酪農を、代々やっておるというふう

伝統がございます。現在は大体、四百戸位で、最近の平均は二頭半という方が現況でございますが、二頭の飼育を奨励いたします。当然必要になつてきますものは、いわゆる飼料の草地の育成でございます。二が伴いませんと御指摘のまうに金がかかる飼料を買つてあてがうという二によつて採算に非常に矛盾をきたして、いくという二とは、当然いえると思いますが、現在、状況では、そういう牧草地帯も非常に少ないために、畦畔も利用、草地位によつてまかなつてゐる方が非常に多い状況でございます。

酪農を奨励する以上は、それに變更した牧野の開拓造成というものが伴わなければならぬでございます。今市でも二点については、考えておきまして、また

具体的にはありませんが五カ年計画というふうなものが
今準備中でございまして今後乳牛の増加と平行
に飼料供給地を造成していくというふうに
今研究しておるわけでございます。

四十年度にわすかながら小規模草地改良事業、或いは
優良草地造成事業、こういう名目で若干の予
算を計上したと思いまうたが、これに引き続きまうて
できれば今年度より後半、或いは四十三年度から大体
山林ニッパヘグアール位を第三次構造改善事業とし
て草地育成をはかつていきたい。こういうふうな構想
をただ今持っていてゐるようになつてあります。

次に園芸振興について加工場の設置の意思ありや
というふうなことでございますが、一番今悩んであり
ます。夏みかんの落果、二、三間の風あたりでも非常

は落果を見ております。さういふこともお話にやります。したが、これは企画外の処分問題ですが、これを一緒にまゝして落果の処理・加工処理ですが、これにつきまゝでは従来は農協が支所を通じて直接東京の業者へ売つておるようでございますが、非常に値段をたたかれ極めて不利な状況で行なわれておる。こういうことは非常に惜しいことでございまして、こういう点も研究はしてありますが、如何せん数量におきまして加工場の設置によつて採算制というものが相当問題があるのではないかと。こういうことが言われておるわけでございます。昨年あたりで夏かんう方で年間六万キロ位と推定されます。またいちごは、一ば一万一千キロ位だということでございますが、これだけで一つ加工場や運送というものは相当があるという

が現況でございます。そこで今後、対策としましては、先ほどもお話がございましたが、例えば、三芳とか富浦とか、所在を含めまして、広域的な加工施設というものが出てくるのではないかと、こういうふうに考えまして、

この点は、新農協に検討を委託しまして、早速取り上げていただく考えを今持つておる次第でございます。

次に市営青果市場の問題ですが、御案内のやうに、市場は現今、野菜、出荷、その他に極めて大きな役割を果たしてゐるわけでございますが、館山には現在市内に二カ所でございますが、このうち、大体時代を要求申しますか、現況では非常に運営がむずかしくなつてきておるといふ状況に追いつめられておりまして、市と県と一緒になつて、これを統合し、ならうかといふことは、二三年前から出来まして、特に昨年あたり相当

につめて参ったのでありますが、非常に一時順調に進
みまゐり、合併してもいいじゃないかという気分までいっ
たんですが、最後にいいますと、両者の間にいろいろな
バツグがありまゐり、ニよゝ調整がなかなかむずか
かったという点と、さらに果てしなく指導方針としましては、
現在、情勢からいいますと、市或いは町村でち
りな市場経営というものは、今後、こういう対策
に対抗できないのではないかというふうなことで、果
しては、これを広域的な一つの市場経営を行ないた
いから、できるならば、これを公営に持つて、いったら
どうかというところが、果てしなく指導の方針でござい
ます。従いまして、市場の統合につきましても、相当な資
金が必要でございまして、ニよゝの金融対策
については、果てしなく援助をいただかなければなりませ

んが、二つについてはあまり乗り気でない。むしろもう一歩進んで今申し上げましたような広域的な市場の統合。こういうことになります。融資も極力あつせんする。なお補助金も出すということで、ただ今話が出ておるわけでございまして、この点も早速、そういう方向にいくように考えておる。でございしますが、仮りに、フリーな機構にましても、例えば、ここて言いますれば、舞南から千倉まで位を一緒にして、共同市場という大きな構想が考えらる。でございしますが、これも現実の問題としては、なかなか困難性がある。と考えられますが、少なくとも考え方といひまゝでは、広域的な市場行政があり方という考えでございします。

これを概算しましても、当面必要な経費は二億乃至三億の経費が必要ではないかと推算されるわけでござい
ます。で、今後近隣町村との連絡を取りながら、そ
ういう方向に持っていくまい。かように考えておる。で
ございします。ちやうど、商工対策協議会が先般発足
と見まわらう。二つらう問題は当然、二つに会に取
上げていただきます。御希望の線が達成できるまう
な方向に進みない。かように考えておる。又、茅でござい
ます。

次に有線放送施設でございしますが、館山は有線
放送は県でも非常に先進の市でございまして、ま
だ県内では地区的にたくさんございまして、館山が一番
早い。うではなつかと思っております。

新農村事業として施設を始めまして、館野、九重

地区が一番早かったと記憶しておりますが、その後各
地区にできまして通報連絡事務に大きな役割を
果たして参った施設でございます。二小が先ほどお話
のようにな十年間、耐用期間が切れていって、
各種の施設、設備、二小を改善し、更新しないと
再許可には持ていけないという事になったのでござ
います。館野、九重地区は、四十二年七月までに果
申請を出す事になったのでございまして、二小の施
設は今申しますように非常に便利な一、二小も農村
の連絡事務としては親しゅうある一つの施設でござ
います。今後とも二小の機構を使って市内全般の
農村間の連絡事務をはかていきたい。二小というこ
は市といえども同様と考えております。
従いまして、二小は更新をして今まで通りに継続を

—ていきたい。ニういう意思を持つてゐる次第でございま
すが、新農協がござま—て新農協の意思といひ
ま—てもやはり市と同様にかなうな意思で統一されて
おります。

ニが更新につきま—ては先ほども数字でお示しに
なりましたように一万円から二万円の間、金額を各
戸から負担しなければならぬ。ニういうような状況は
農家の経済事情と申しますか、非常な負担が大
きいことが当然予想されますので、農協関係といひ
ま—ても取り上げますが、市といひま—ても、従前
も補助した事業でございますので、同趣旨によつて
何分なり援助を—ていきたい。ニう考えてゐる次
第でございます。

農業構造改善地区における今後、指導でございま

すが、山本安布重地区の農業構造改善事業は、
非常に関係者の協力でうまくいきまゝに計画通
りできて耕地の換地も三月末で決定を見ておる
というところでございますが、御指摘のように今後個
々の所有権を確定して個人持ちになる。三ついう
形態でございますが、これは土地改良の趣旨から
申しまゝで、当然最初から予想されておたところで
ございますが、問題になることは、せつなく農業化を目標と
して行なつた構造改善事業が本来考えておた
ものではちよつと構造改善の運営、管理からいつて
相違矛盾するような点が出てきはしないかといふ点
につきまゝでは、非常な問題があり、心配さる点
でございます。一かゝり、これも今後持つていき方
でございます。まあ、きいに整地さへまゝに各個

人の負担がでますとそこに個人の昔ながらの感トという
ものがみえてくることは考えられます。

一かーミラントとあり三反歩程度になっておりますが、
ああーな地区の仕事は、個々にやることはできないと思
いますので、今後指導の方法としては、いわゆる共
業化方式の方向に持っていくて各戸まちな従来の
方式をそのまま持つていくということは極力規制
して作づけの規制とか、品種の指定とか、いろいろの
指導面はあると思いますが、そういう面でいかな
いことには（んなもの）ができませんが、かように考えます。
要は広い面積を共業的にして、そうして、労力を節
減して、ミラントというものが目標であるわけでござ
いますので、そういう方向の面は、くずりなくないと考えるわけで
ございます。

申上げますならば、依りに水稻などにつきまゝでは、
 種々統一をはかつて計画栽培をさせていく。或いは
 農協が機械などにつきまゝでも、耕作が委託事業を
 推進して作業の円滑化をはかつていくように努めてい
 とか、或いは防除とか、或いは施肥、そういった関係を今
 申しまゝたうな考え方もとにかくはならぬ。ならないま
 うに持つていくような指導をしなければならぬ。では
 ないか。或いは労力がかかる稲刈りの作業などにつきま
 しても、本年度コンバイン稲刈り機でございすが、こ
 れを購入することになっておりますので、こういう機械
 をもつてということは、ばらばらにならないように、そうい
 う機械が導入できるような耕作態勢を取らせて
 いくという考えを持つてでございます。以上申しま
 すが、簡単に要領を得ない点があると思ひますが

近代的な農業経営を行ない、農家人口がだんだん少なくなつていくという情勢下におきまゝて、やはりいろいろな施策を講じながら、割りのいい農業経営、産業経営というものがさえるための努力はいろいろ面から考えらねければならないという基本観念は常に私も持つてゐる次第でございます。以上簡単でございますが、御質問の要旨について私からも答え申し上げまゝ。

三三番(三沢節子君) ただ今は非常にこつていぬに、まだわかりやすくも答えをいただきまゝて、本当によくわかりまゝに、ただ牧野の開墾事業でございますが、何にしても、館山の米を除いたところの収入とすれば、現在では、酪農が一番大きいと思います。そゝ酪農についてほとんど購入飼料に頼るというところは、個人ではどうして、個人では牧野の開墾という二ともできません。経営上、非常に不

安をきかします。先ほど助役さんの言わいまいたようにできるだけ実施に移していただきたいと存じております。ただ今までです。小規模草地改良事業としておやりになっております。今年あたりでも三カ所要望があつたが、たつた九重や三町歩一カ所となつた。

何かこういう計画をもつていきますとかなくとも、二百町歩を必要とする牧野の開墾はいつになるだろうか。非常に不安を持つものでございます。

従いまー。私といまー。市においてはブルトザー台お買ひ下さつて市でもって原野或いは傾斜のゆるいところや山林が相当ございます。ミラといったものを十分活用して、一かも略農や畜主に負担のかからぬような方法でいっただうかと思ひます。

御承知のように、かつては裏作によるところの牧草ということが非常に多かったが、現在早期栽培がはやりまいて、これをやるためにはなかなかできないうてあります。

そういう関係から畑ということですが、畑もそういうのもうに使用されておる現状では、原野を開墾するとか山林を開墾していかないと、現在必要である二百四十頭に対しては二百四十町歩という数字が出てこないうてあります。従いまして、少なくとも五羊間見当に牧野の造成をやしてもらわなければ、百姓が老令化してありますうてつづいてまいります。

こういう観点から、少なくとも一年間に十五町歩から二十町歩の開墾をしていかなければならぬうてはないか。こういううてでございます。従いまして、その一番手前かな面として、ブルドーザーをも買い願いたい。かように要望する。

のでございます。さらにブルトーザーはいろいろな土木関係にも或いは観光関係にも或いは衛生施設課関係にも相当使用しております。

そういった観点からせむともブルトーザーを購へてこの早期造成とお願いいたいたいでございますが、まずその点について伺います。

市長取務代理者助役（小出武男君）館山には土木も含めまして機械類が少ないうででございます。

皆さんも御承知のように習志野あたりは非常に機械化されておることとで有名でございますが、先ほど来のお話のように人手も少なくなっています。いろいろな要望に対してわざわざ地区に機械を借りてくるということもできませんので、できるだけ、そういう方向にいくがいいんではないかという気は十分しております。

今年土木課の方で一台路面をかく機械を買ふことに
予算をお願いしてあります。これと同様な考え方で
農業面その他開墾を含めまして考えらるう
てはないかと私は考えております。考え方としては同感
でございます。

三三番(三沢節君)一応市の取政事情も私よく知ってお
ります。本年度における予算の膨大さもいろいろ
な理由で仕事を多くやることも存しておりますが、でき
るだけ近い将来にこういう機械を買いこなしてな
るべく早く略農振興のために牧野の開墾を希望し
てまはつ次第でございます。

それから二番目の加工施設でございますが、私も決して
館山市で作ってもらいたいという意味ではなくて、そ
れこそ助役さんの言わばまーなように近隣をそういつに

夏みかんとか、いちごを作つておるところを含めまして、
一年間、努力が捨てられないように加工
いたします。農家の方のところも、その点では非常にゆ
るやかになつてくるだろうと思つて、特にお願い
するわけですが、この点、即答はできないと思ひ
ますが、できるだけ、そういう方向で計画的にこれを
進めていきたいと思います。これは要望に止めます。

第三点、市営市場は私としては、現在、市場を統合
して強化してもらいたい。かような音、味でございま
す。確かに話のように広域的にすることは十分考えら
れるのでございます。また、そういうことで現在話合
ひをしておるといふことを聞きまして、非常に私と
しても音、味を強くするところですが、なるべく効果的
に推進してもらいたいといふことをお願いして、この問題

も了承いたいたいと思います。

最後に農業構造改善事業う今後の指導でござい
ますが、これはいろいろな面を考えたる面でございま
す。その一つは先ほどちやうと触らうまいに換地処分
よって今後市町村計画通りう失業化ということが進めら
れるかどうか。現在農協といいたうまいても、大型耕耘機
が二台ございますが、非常に能力が良満ござうて、去年
あたりで十日でやうてうまい。そうしますと、本年度大体
換地があるといひ予想のもとに換地前に作つてお
うといふことで大体委託を受けてうなうなるのでござ
います。まだ少し残つております。今年はまだあま
りございまいが、来年度からは換地後自分う田となつた
場合に自分う家にも耕耘機があります。金うかか
る大型耕耘機を頼むかどうか。四反、五反といふ百姓

が或いは自分、耕耘機と利用するのではないか。こういう心配があるのであります。

むしろ構造改善事業として農業化をやらせ、いかにも労カをみかんと略農に向けようというところが基本でございまして、そういう考えは至農家持てゐると思ひますが、そういう部門に入らない百姓がございまして、牛もやっていない。或いはいちごもやっていない。こういう農家に対しては金をかければそれだけ赤字が出る。こういうことが考えられます。

従つて耕耘機のない人は、そういう小型耕耘機で間に合います。その方が安上がりだ。こういうことが、私個人でございまして、けんけんとも考えらるゝでございまして、従つて大型耕耘機二台が一台で間に合うというふうな結果になりはしないか。という感じを持つてござい

います。これについて市として、共業化を確める面でお
答え願いたいと思います。さらにライスセンター内に乾燥
機がござえます。これにつきましては来年は、自分自分
でもぐすり機がござえますので、そこでやりますと、数量
が少なくなつて、経費が多くなるという現状が出てくる
のではないかと、かように思うのでござえます。

さらにもう一つは、いちごとかかんや栽培の関係でござい
ますが、いちご等も今までのように作っておりますと
比較的いい値で切れますが、非常に單価が落ちてきま
す。現在おこりますと、干月としますと四月に入ります
と干月を割ってきます。こういうことから栽培の技
術者を導入して、或いは研究してもっと早く出せるよ
うな措置を取っていただきたいと思いますけれども、
こういう面をお考えをお尋ねいたらないと思います。

市長職務代理者助役（小島武男君）技術的にわたり
まゝして私にはつきりない点がございますので、主管課
長から一部申し上げまいかと思ひます。

今お話を聞きますと確かに大型で入らない個所に
従来持っている小型が入ってやるような事態というが
私どももうとうとから考えまゝしてあり得るように思ひま
すが、三つううことはいうならやむを得ないと言へば、
やむを得ないんですが、長い間大きな力で大きい面積
をやるという基本觀念でそこでいけば、何年かうちに力
かも少なくなる。それだけう余剰労力がほかに使
えるというところが、一面打ち出されてくれば、そうときに事
態は解決していくうではないか。これはもううと考へて
ございます。するようないが、いけません。
ほかの点は専門的にすりまゝして私存にしません。で、主

課長から答弁することをお許し願います。

農林水産課長（伊藤幸太郎君）私からかわつてお答え申し上げます。大型機械とライスセンター、お話でございしますが、今お話のとおり換地処分が完了いたしました。すると各耕作田が各個人所有に正式に登録さしめて完全に個人のものになるという結果になるわけでございまして、この利用につきましては個人が自由な立場でやられる面が若干出てくるということは予想されます。

しかしながら構造改善の大きな目的がやはり基盤を大きくして大型の近代化機械を導入して労力を節減するのだというところにあるわけでございまして、一時的には御心配のようなお点も一部には起きますことも予想されますけれども、私どもとしましては、普及事務所等が協力を得まいてくださるだ

け、今お話しをまいにたような失業化の方向へと努力して指導して参りたいということでございます。

また大型機械の使用の面でございますけれども、御指摘のとおり、単に構造改善地区だけのものではございせん。現在に参りますと優先的ではございますが、市内全般ということも理論的には考えられます。でありますので、できるだけ広範囲な利用の方法に農協とも十分話し合ひまして持っていきたいというふうに考えております。

それから、いちごその他栽培法、或いは経営上の問題でございますけれども、今お話しをございまいなうに、房州いちごという名産と市場でもって、かり得ております。

年々再々同ドとは限らないわけで、値段の研究、それら

構造改善の耕地を作つておるといふのが、工合が悪い
 のでございす。趣旨から言ひますと、そういった面
 からある程度、小さな経営者が土地を離れて専
 業農家にゆずつたかどうか、この点をお尋ねいた
 さいと思ひます。

・農林水産課長(伊藤幸太郎君) 私の考えを申し上げたいと
 思ひます。

農業の根本基盤はやはり土地そのものでございす。
 てありますので、現在小規模な耕地面積に頼つての農
 業経営というところは、近代的には考えられないわけござい
 ます。一かーながら、これはあくまでも個人の所有権の問題
 題にからむわけでございすので、現在の状況としま
 ては、強制的には持つていかねないことは事実であるわけ
 でございます。一かーかような考え方にありありが

理解していただいて、そうして得るだけ、専業農家の規模を拡大していくということにも互いの理解が深まるものと期待したいと考えております。現状におきましては、横断区分によりまして、従前より反別に比例いたしまして反別によりて配分せざるを得ないわけでございますので、かような結果に相なるわけでございますけれども、あらゆる機会にも願います。三三という気持は私ども十分考えておるわけでございます。

・三三番(三反節) 決して専業農家に無理やり売ってやるという意味でいったわけではございませんで、その点よくお取り願ひしたいと思います。ただ、私といひましては、はじめて指定された山本、安布里地区の構造改善が互派に成功しまして、さらに次の段階の新しい構造改善地区を選んで、館山地区が、あ、あ、あ、美

一、田園の中、農家経営が進められるように、そうして、
 せつかく作りまゝにセクターにても、大型耕種機にても、
 まだ十分能力を残してありますから、そういう計画
 をどんどん進められることを期待するわけでございます。
 要するところは、二、三苦しい館山市の農家経営を少一
 でもよくしたい。そのためには、一番足元の方から、二、三を
 一つずつ改善、向上させていきたいというところから質問
 したいものでございます。

うぬ、ただ今お答えのようによつて、二、三の質問に
 対して、実際の面でお願いできれば幸いです。
 大へんありがたうございまして。

議長(田中康郎君) 午前、会議はこゝにて休憩いたします。

午前十一時四十八分 休憩

午後一時二分 再開

議長(田中祿郎君) 午後、出席議員数二十五名

休憩前に引き続き会議を開きます。

一、番議員(田中実君)

(一、番議員登壇) (拍手)

二、番(田中実君) 四十二年度の施政方針に関連いた

りまして、大まかに分けまして五點、御質問申上げ

たいと思ひます。質問の内容は大きくは五點では

ございまするけれども、その内容につきましても、具体

的な面について触れたいと思ひます。よろしくおめら

にござい、御答申、ほどをお願ひ申し上げたいと思ひます。

まず第一点でございます。本年、予算に

つぎましては、全体的に健全予算、とは言えない、では

はいかというふうに思えるわけでございます。そのことはまず、第一点といひまゐりて、市勢振興調査報告書並びにまた答申はさいておりませんけれども、館山市の長期計画案、二つに指摘されているところを見ますると、今日館山市が置かれておるところの状況は非常に地域格差の中で、もつてむずかしい立場にある。館山市が躍進の道を選ぶか、転落の道を選ぶかという岐路に立たされておるということが指摘されておるわけであります。

そうして、両方とも現在うまゝ市勢を推移していくならば、館山市の市勢は老化現象を起し、後退を余儀なくするであろうということが強調されておるわけであります。

こういう館山市の長期計画、現状に立脚した場合

もつとも重要なのは地域格差という問題をどうように考えるかという事でございます。

長期計画案、基本構想には四点並べられております。こゝ基本構想には生活水準、向上、産業基盤の整正、備充実、教育水準の向上等、指摘されてゐるわけでございませう。

三つという観点にたつて、市長がかねがね苦勞されてゐることは明らかでございます。

さらに市勢振興計画を見ますると外部環境の變更に、対応しないと、ろく市政というものを打ち出さういふわけにはならない。すなわち首都圏、東京をすく、そこにひかえ、立地的な条件、さらに工業地帯の躍進という中で、館山を考へなければならぬ。

そういう観点から地域圏を国民経済的なマクロな地

点で熊山市を分析する必要があるということが明確にされております。

これが今日の市政の根幹になって進められておりますことは常々市長が申して述べておるところでございます。

三つの観点から本年度、産業、教育、観光の三点を中心として予算化を進めたいということをおわけておるわけでございます。一か一具体的にはどう部面にどうやうに予算化されておるうか、私が予算を見な範囲ではわからないのでございすけれども、三つの項目を指摘していただきたい。このことを第一点に御質問申し上げます。

これをより細かく申上げますると本年度の予算の中でも市長がもっとも中心にしておりますところの観光の面につきましては多少予算的には増加しておる面

もあるかと思ひます。一かーながら教育予算については依然低迷を以ておるうでござひます。

房南中学校の建設費を含めましても、市民センターの建設費を差し引きますると予算全体の中で占める割合は大体一四％前後に落ちておるうでござひます。市民センターを入れますと二六％になっておりまするけれども實際の予算というのは一四％強という一ことになつておる。額はいないまゝで約一億五千万前後になつてしまふ。

一億五千万の教育予算という一ことになりましますと、ちなみに見て見ますと、昭和三十八年度に一億五千万の予算、熊高の予算が四千万組まひております。で約一億円、昨年度におきましても教育予算は低下してありますけれども、約一億円、本年度も房南中学校の建

策費を含めても一億五千万、こうなりますと教育
 におけるところ、予算面から見ますと十年、この
 予算的にもかわらない。一か一反面、館山市の財政
 は昭和三十八年度は五億五千万、当初予算でござ
 います。四十二年度は倍額、十億二千万でござい
 ます。これから見ていきますと、むしろ教育予算は額的にも
 低減していることが言える中において、どうい
 う面について当初予算の中において教育と重点と一
 点、予算化が具体的にどういっているか。こ
 ういふ点お伺いいた
 いわけでございます。

農林水産費において一かりでござい
 ます。産業の育成
 は農林水産業でござい
 ます。

昭和三十八年におきますところ、農林水産業の決算に
 おきます。全体の構成比率は七・五八%。その額は四

千四百万でございます。

昨年は全体予算の中によめる割合が五・八四と減っております。

額にして四千七百万円、今年、当初予算につきましては全体構成比は四・三三、額にしまして四千四百万と減っております。

三十八年度から四十一年にわたるところ、この期間における予算全体の比率は先ほど申し上げてございませう。それが教育、産業を重点施策といたるところ、館山市の予算編成がこのような教育、産業において、予算が比率において減少し、額において十年に二の五にわたらないという予算的ケースの中で、どうようにしてこの予算編成から見たところ、産業、教育、観光の三本の柱が織り込まれておるのか、この点について

お伺いいたしわけでございます。

先般の決算委員会におきましても、こういうことが指摘されておりましたけれども、この点について市長、当局が常々申し上げているところの三大施策の具体化、そしてその実現ということは今年予算からほど遠いものがあるという点を私は指摘したいわけでございます。まずけれども、この点について、私は施策と予算というものが、不均衡である。一致していないというふうに思うわけでございますけれども、この点について明確なる御回答をいたしません。

これに関連いたしまして、歳入歳出の不均衡でございます。収入面を見ますと、市税がほとんど横ばい状態でございます。

昭和三十一年、このとき市税の割合が三七・八％予算

といたーまーでは二億千二百万円、四十二年の今日におき
まーても三三・七％と市税の収入割合は非常に減つてお
ります。願におきまーて三億四千五百万、伸びが非常に
少ないわけでございます。特に昨年から今年にかけ
ては税収の改正等ございまして、大幅に市民税が減
つております。

二に関連いたーまーて多くふえてゐるが寄付金と交
付金でございます。

寄付金は昨年一・五二％から今年は二・五二％とふえ
ております。

三に市民負担の軽減ということがどこに出てくるかという
ことを私は指摘したいでございます。

歳入の減少傾向につきまーてはさらに諸収入においても同
様でございます。

昨年から今年一番ふえたところの予算割合は諸収入で
とございます。

いろいろな財産を売ったりしてある収入が非常にふえて
ある。こういうことは予算の数字が拡大したといっても
その内容については全く不健全なまわるものがある。で
はないかということ私はここで指摘したいわけでございます
けれども、こういう状態で予算が計数的に増大して
いくことは館山市の将来にきまいて非常に危険なまわ
まりなところではないかと思ふわけでございます。この点
を指摘したいわけでございます。

支出の面につきましては特に今年に限って申しますと、館高
の移管費、さらには市民センターの建設、水道道等
の事業にほとんどが食われてなるわけでございます。
この数年の予算の傾向としましては館高の移管、

市民センター・水道・トンかい処理場・ニラーたもりに予算
がほとんどつぎひまわてゐるわけでございます。ニラーた
公共的な投資というものはある程度、私はうなづける
とは思いますが、ニラーたもりから公共的投資が
将来、館山市の財政を拡大していくところ、再生産を
する建設的予算ではないというふうに思えるわけで
ございます。ニラーたもりの作る反面において、市民
の実生活そのものが非常に年々、わきまをきいてきて
ゐる。こういうことが伺われるわけでございます。ニラーた
面において、私は通告いたしまして、歳入と歳出の面
において非常に不健全であるというふうに心配する
ものがござります。これは私一人の心配なすか。
当局は我々議員の心配に対してどうようなお考えを
持ってゐるか。そう真意のほどを伺いたいわけ

でございます。

まず、今年予算を見て非常にぎりぎりいっぱいな窮乏な予算が組まれているというふうに私は思えるわけでございます。その中でも教育費についてでございますけれども私はこれについて税外負担の心配が二三指摘されているわけでございます。

ここ数年、学校を作ったり、学校の施設を作ったりする場合にほとんど地元で寄付金が集まらなかったりもしているということが言われている。そういう立場から学校教育の振興がなされておるということでございます。

今年予算はPTAの負担軽減という形の中でもって需用費の増大はされておりますけれども基本的な問題について私は予算的処置がなされておる

ないうで、今後本年度の予算の中で、こゝまま踏襲していかねば、学校教育の振興につきましても、相当な地元負担という名目、寄付金をもらわなければならぬ。揮霍で、きついという点、心に配するものであります。

特に指摘したいのは、北条小学校、鎌山一中の問題でございます。

開くところによりますと、こゝ両校とも責任ある市ではないかと思ひます。けれども、部落の懇談会等でもって有カ人たち、PTAの人たちなんです。すけれども、北条小学校を高い金で買ってもらえないか。その金で新しい学校を建てるといふことが言われないことが、一部署に新聞報道されております。

鎌山一中におきましても、最近部落の懇談会等におきまいて、一中をいゝ値で買つてくれないか。売ればその金

で新しくはかきと二階に建ててゐるのだ。二階というふうなことが
学区内に言ひふらされてゐるという一ことが言われてゐるわけが
ございます。とんでもないことだと思ひます。そして、そうして、そう
すれば、地元負担がなくても、新しい学校ができるうなという
風潮が巷にあるということでございます。

これは、市当局の人がいつてゐることではなくても、今年う
予算から見えていけば、そういうことをしなくてはならぬ、一中たり、
北条小学校は、建たないで、はなはだという、地元民の切実
なる要望があるということ。それに、これら予算が出て
きてない。二階、三階、市当局と地元の見解の違ひとい
うものがいつか、爆発して、大きな問題に発展してはなないか。
二階、三階に配がある。二階、三階に面について、今年、教育予
算については、何ら解決させる方法がない。二階、三階を配
するわけでございます。

ブル問題についても一かりでございます。

二、中神余においては莫大な地元負担金ができたり
で、できたが、一中、その他においてはブル建設の陳情決
議されておられながら、何う計画が立てておられない。
地元負担金が集まらず金を持つてくれば作るという態
度一か見られない。西岬におけるところの幼稚園にな
いても一かり。今後、ほかの地域におけるところの教育予
算についても既成事実を作つて地元で予算を作ら
なければならぬという面があるのではないか。この点に
ついてはお伺いしたいわけでございます。

土木費についても同じでございます。道路が悪くて
見るに見かねないところがございますが、今日三分の一が
地元負担金が固定化されてゐる中においては、そういう
問題は必らずしも解決されない。地元負担金が

集まるところは事業がさける。やらなければならぬけれども地元負担金の集まらぬような小さい部落。そういうところではほとんど二、三の土木事業はなされない現状、二、三の面はもう考えざる必要があるのではないか。二のことは市民に対して税外負担を強要するような予算になつておるのではないかというふうに思います。

衛生部門についても同様でございます。衛生部門につきましては私は二点ほど指摘いたします。一つは清掃でございます。夏季のハエ、カ、退治についてはほとんど部落、民間に委託されておるということ。二番目は共同募金、赤い羽根、緑の羽根、

歳末助け合い、いろいろ部落の仕事として婦人会の仕事としてほとんど固定化されておる。そういうことはあなかも税金に等しいように巨費の中から徴収

さしてそうしておさめておる。本来の共同募金の精神は、みだんも見られないという現象があるわけでございます。ニラーな点はやはり、税外負担を強要せざるを得ないような予算になっておるのではないかと。このことで市長がかわがわ申しておるところの市民負担の軽減ということからほど遠い。むしろそういう言葉とは、逆行になります。うな傾向に今年、予算編成はあるのではないかと。思うわけでございますが、これらの点についてお答えのほどを願っています。というわけでございます。

第三点に幼児教育と保育園の問題でございます。幼稚園につきましては、教育基本法に基づいて行なわれておると思えます。

教育基本法の要旨は、教育の機会均等と平等と。いうものが原則になっております。そうして、今日幼

児童教育の重要性はもう世間の常識になってゐるわけでございます。そういふ中に保育所はどうであるかといひますと、保育所は児童福祉法第二十四条条により規定してあります。

あくまでも二十四条に基くところの児童処置という形の中で収容処置されてゐるわけでございます。そこにゐるから幼稚園と保育園というものは全く別のものであるわけでございます。

そこで私は質問したいのでございます。今日、館山におきましては幼稚園があります。幼稚園がない地域も九重、館野、豊房等ございます。

従来、教育委員会におかれましては、館山市においては幼児教育の完全実施、ということば理想であるけれども、一か一ながら幼稚園がないところについては保育所

をもつてニハに充てておる。で幼児教育は支障がないと
いうような方針でおる。そういうに伺えるわけでございます。
ます。一カーながら私はここで問題になるのは幼稚
園と保育園とは全く違ふものであるということござ
います。そうして今、熊山市において現状をまま
幼児教育というものを進めておると大へんなことになる
のではないかと。いうことで私は質問するわけでござい
ます。

すなわち保育園の措置費です。これは児童を処置
する費用だけれどない。でございます。

児童の教育に対すると。その教育費は児童措置費
の中に入れておらないというふうに伺っておるわけござ
いますけれども。二点についてはどうなっておりますか。

そうしてその保育園において児童措置費の取

ない保育園において現実の問題としては教材教具というものが入って小学校に上る前にある程度小学校に入ってから支障のないような教育がなされておるといふことを伺っておりますけれども、この点の現状についてはどうか。特に私立の保育園におきましては教材費とかさらにその他幼児教育費的部分の負担金は何らの形で取られておるといふことを聞いておりますけれども、この点はどうかになっておりますか。お伺いしたいと思っております。

今日幼稚園やない地域が保育園で代行しているということになりますと、小学校に入ってから大きな開きとして出てくるのではないか。この点について危惧の念はないか。保育園については現実問題として幼児教育をいなければならぬ。そういうような実態がある中で非常に無理

して予算の調律方法をしてゐるということと同てゐるわけでございます。

そういうことから措置費の若干の融通性というか、そういうものについてお目にみるということが保育所の経費者の中においては常識化されてゐるということも伺はれるわけでございます。ニライに常識化があるということとは幼児教育をどこまで行けばならない地域に対して市が幼児教育に對するところの施策、また予算的な処置、そういうものがなされてないから、ニライの問題が起きてくるのではないか。

かように思うわけでございますけれども、現在、館山市の保育園、民間の保育園におきます保育状況、この点について御質問申し上げたいと思つてゐるわけでございます。

第四点目

果、地元負担金でございます。

館山高校の移管に伴う体育館の負担金として
千二百万さらに南校におきまするところの運賃負
担金四十万、東京湾協議会に対する五万、交通相
談二十二万七千、カン研究会に対して三万、農業信
用基金協会、開発公社に対して七万、県、沼山治
水協会十八万、道路協会に対して四十二万、その他
敬言寮の派出所、教育委員会やいろいろの協議会
負担保健所等における分担金、こゝらを取り
上げていきますと、相当教地元負担金があるわけで
ございますが、こゝらについてはどうように考えるに
なるか、御質問いたらないわけでございます。
次に学校建設について、見通してございます。

こゝは新年度予算に盛り込んでおる房南中学校
の建設について、関連して申し上げたいのであります。

四年前私が当選して以来、当時、工藤教育長さんも言
わけておりまして、館山市の学校建設は新規
に行なう場合にはすべて鉄筋化で進めていくのだと
いうことを強調されておりました。

今日まで四年間、教育長もかわりまして、そういう方
針はくずさず、いいというふうには私も信じてお
ります。特にこの問題につきましては、神戸小学校の
鉄筋化の時期尚早ではないかという論議の中で教育
の常識では木造はあり得ない。鉄筋化が一つの原則
なんだというのを終始教育委員会は断固堅持して
きたうでござります。

そういうことを我々は強く印象づけられておるわけでござい
ます。

そういう中において、今回突如として房南中学校を木造

建築にかえなければならぬという理由はどこにあるか
私はお伺いいたしております。

それと私は房南中学校がでまるということについては
市の教育委員会が作業を進めておりまゝなところ
統合審議会より答申の中においては三校案というも
のが出ておりまゝで房南中学校の問題は出ており
ませんで。

従つて三校案についての是非につきましては文教委
員会でもつていろいろと意見がたまゝなり。私自
身も三校案に対する若干の意見の差は持つて
おりまゝなり。一か一かながり。今回房南中学校を木造
で建てるということとは木造と言えども三十年、四十年
利用するところの反永久的な建物でございます。
完全に統合審議会より統合めらはずさいております。

その点を私はまず前提におきたいわけでございます。

この統合答申案にはずいぶんから、木造にいたうかどうかと
いうことでございます。

私は従いまして、房南中学校がでるという事実、また
予算化された場合に再度、それらを統合審議会に付
託して、統合計画案の修正をいなかたか。私はそうい
う経過を見てくると、当時統合審議会が熱心に討議を
いたことは、今考えてみると、房南中学校を何とか作ら
すにこそ、かそうという、そういう意図のもとに、統合審
議会が作られて、まうて、統合審議会でもうて一生
懸命に討議されたであろうところ、審議会が決議
がくずさへても、何う知らぬ顔をして、その後、統合審議
会も開かないという経過を見ますと、非常に不信が
念にかられるわけでございます。

特に房南中学校の建設が陳情。その他によつて、要望の
文教委員会に話さなければならぬ。鉄筋に
してくわという文教委員の大多数の要望を心見が
あつたはずでござります。そうして要望意見にも加
かわらず、文教委員会了解もなく、本予算案の中
中において木造の房南中学校ができたということは
どういうことか。私は疑問でならない。

この点について、すつと答弁をいたさない。

そうして、何故房南中学校を、あつたほと、釧路市、基
本方針として、今後、学校建設は、鉄筋にしなければ
ならないと強調されておるところ、教育委員会
が、木造にしたいか、そう真意を明確にしたいか、
たい。以上申し上げて、非常にうづばくになりまう。け
も御質問にかえたいと思ひます。御答弁をうけたい。

お願い申し上げます。

(市長職務代理者 助役 登壇)

市長職務代理者 助役(小沢武男君) 辻田議員の御質問
に對してお答え申し上げます。

内容が非常に多岐にわたり、場合によつては相当具體的な
問題に触れますので、私を答弁で、もし落ちたところは
さらにあとから付け加えていきたいと思ひます。

なお、この際、教育部門で市長の権限に属しない一部の部
面につきましては、教育長の方からお答えさせますから、
さようお含みいただきたいと思ひます。

御質問の第一でございますが、地域格差からくる市民
生活の遅れを取りもどすため、ということが前提にな
ると思ひます。これは、理屈になつて申し分ないと思ひま
せんが、市民生活の向上と申しますことは、いつならば、

経済面と文化面精神面と物質面と二つから解
釈されると思います。もちろん経済が向上しないと文
化の向上もあり得ない面が多分にございます。

午前中の御質問にありましたように格差の問題
は主として経済面を申し上げたいでございますが、経
済面は午前中の登壇で一部代用させていたと思いますが
と思います。精神面におきまして、いわゆる文化生
活をするために教育・文化・道路・交通・環境衛生
すべてを含む環境がよくなることと、それに加えて
経済面の向上がもたらされることによつて、市民生活
の向上があると考えられるわけでございます。

そこで、三十一年度を基礎に置きながら、当然考え
てゐるわけでございますが、四十二年度予算案の編成
において、この打ち出さぬというので、相当不健全な

持っておるのではないか。二、三いうふうに取りたわけてござ
います。

四十二年度、予算編成につきましては先般施政方針、
ときにより一応申し上げましたが、四十二年度、予算、編
成につきましては、私ども、編成の当初から、四十二年度の
特殊性というものをえいまして、編成をいたしまして、
と申しますのは、四十二年度が市長の方針で打ち出されて
おります仕事の中で、大きな事業が相当まとまって投
資される年であるという、一つは現実でございます。

このために、予算編成につきましては、二、三にばって
四十二年度は、その他、各課の新規事業は一応行
なわない。ただ、どうしてもやるべきものについては、既定予
算の組みかえ操作によって、調弁するという、ことを基
本的立場として、編成してございます。従いまして、二、三に

よつてき上つた予算は、その特異性が、出てゐることをまず御了承願つておきたいと思ひます。いふなれば四十二年度は一般事業においては足踏みの形態である。これは今申しますように重点施策を施行するため、やむを得ない措置として取つたということと前提にしたいと思ひます。

かような考え方に、編成し、また予算で地域格差、市民生活の後進性という二点に對しては取り立て、特に今年新しくやつたものは、或いはないかもしやせんが、少なくとも市長の方針である大きな三事業で今年投資される事業は、いずれも市民生活に役立つ大きな要素と行つてゐるということがいえると思ひます。例えば水道の建設に、ましても、市民センターの建設に、ましても、或いは環境衛生、交通対策、さらに

観光の問題にしましても、やはり等しく市民生活向上の一助だというところで御理解はもうろんわかっていると思ひますが、そういう観点で考えてまいります。

具体的ク一二にしましても、例えば教育費、その他問題につきましても、予算の比率は毎年違ひます。と申しますのは、その年、その年によつて投資される臨時経費というものがあつたわけでござりますので、比率が年々と上る年もあります。逆に下る年もござります。従ひまして、ただ教育予算が何%とよく言ひますが、これは内容を見ないと、厳密には言へないと思ひます。

教育予算も本年度も予算を見ましても、経常費は本年も父元負担の軽減措置を組みましても、増額してあるわけでござります。

市教育予算も全体的に比率からいってどうかわかりませんが、そんなに経常費、その他で低い方ではないように考えております。一か一それをもつてしても、こうなりでござりますので、まだまだ改善すべきことは当然でござりますが、本年度の予算としましては、きわめて適正と申しますか、やむを得ないというふうに考えております。

それから、寄付金等、問題について述べらるるものが、寄付金はなるべく少ないことを望むわけでござりますが、本年度相当増額しております。これも本年度に限った仕事でございまして、水道寄付金とか、受益者の寄付金でござりますので、市民全体にお願いする寄付金ではございません。当然、これは地元が了解してある寄付金でござります。例えば

熊山高校に対する寄付金の八百万程度は、これは町村からの寄付金でございまして、一般には関係のない費用。それから消防などもあります。それから、寄付金としては若干多くございますけれども、一か一昨年くらいに二分の一を三分の一に減らした寄付金で、これも皆さん了解しておる寄付金で問題は無い。そう他はそんなにふえていないはずでございます。

大田市が仕事をやります。寄付金をあてにしていることはおかしいではないかということが言えると思います。私も考える方としましては、一応予算に取上げないものは市の方針による事業を取り上げないでございまして、これ以外に臨時に各地の希望によって出てくる場合が相当でございます。

これからつきましては、なるべくそういうことをしないように

してもらいたいのですが、どうしても一たびおは
ならぬというものが当然でございます。

この場合にいわゆる地元負担金、受益者負担金という
問題が出て参ります。

これにつきましては、受益者負担があまり多いものに対
しては、少く延ばさうか、という注意をするわ
けでございますが、地元の要望漏れがなく、やむを得
ず限度を限つてこちらで無理をして助成していくと
いうか、このうにならせらるゝという事態が多うございま
す。市の方としましては、この予算外に財源がない場合に
は、できないわけでございますが、財源の見通しがつか
ないについては、相談のするというところでございまして、基
本的財政計画には変化がないというふうには私は考へ
て参ります。

それから農林費あたりにも、今年はそんなふう
ておりません。一カー市長の施策からいえば、当然ふえる
わけですが、これは過去数年農業構造改善の経費が多
分に入っておりまして、今年が入っておりませんために、額面と
しては減っておりますが、経常的経費については減っていない
いわけでございます。

それからその他の寄付金につきましても、寄付金と申しますか、
受益者負担金というものについては、前々から一つ考え方
を持っております。それは、受益者負担ということとは、
社会生活の原則である。それについても、公衆性、強い部分
については、公費が一定の比率において援助していく。
そうして、受益者と公費との割合によって、やっていくのが
正しいのではないかと、極端に申しますならば、受益者負担
というものはなくならないか、というふうな考えです。

あります。一かゝ公費負担部分、増額、いかえるな
らば、受益者負担と減額、いくという方向に進みつ
てあります。例えば、道路の工事費につきましても、今
まで三分の一の負担をお願いしておったんですが、今
度からは四分の一に低下いたしまして、消防の施設に
つきましても、昨年から二割の一と三割の一に減額しま
した。さらに、港施設費等におきましても、同様
に減額する方向に進んでおります。できるだけ公共部門
を重視して、受益者負担の方なるべく軽減していく
方向を取ってまいりたいと思っております。

次は、果の地元負担金についての御質問でございますが、
これは、非常に最近多くなつて参りまして、ことあるたびに
果からう要望によつて、それに代えておるわけでござい
ますが、これは、市長会あたりでもよく出るんですが、

地元へ負担をかけるいき方は困った姿であるというふうに
考えておりますが、現状をむを得ずやっております。

もちろん、この中には市と協議の上でまとまった負担金
というものがについては問題は無いわけでございますが、
全然市が了解ないに果だけでまとまってくるものについては
できるだけ、拒否していきないうう気持ちを持っております
ことは先般の議会でも、ちうと申し上げたと思っております。そ
ういう気分は今もかわっておりません。

それから幼児教育の問題と鉄筋化の問題ですが、
これは私ともう関係から申しますと、予算上の関係で
すから、安くていいものを作ってもらえば一番いいわけで
ございますが、そういう計画は、委員会の方の仕事になり
ますが、将来の建物としては橋にましても、建築物に
ましても、永く建築物として、鉄筋化ということとは当然

考えられます。一かゝりもありません。場合によりましては、次の段階等々考え、方等に任せ合せて、一時木造で置くとかという便宜処置は考えられますが、全般的な考え方としては、市長も申し上げたと思いますが、やはり今後の建物としては、恒久建築物という線は、かわりないわけでございます。かように考えます。落ちたところがございまして、あらあつてまた。

(教育長登壇)

教育長(押本禧逸君) 幼児教育の振興と保育園との関係という点につきましても、答へ申し上げます。

数年来幼児教育という問題が全国的に人間教育をいっていく上に幼児期というものの持つ教育の重要性というところが、教育的にも社会的にも認識されて、幼児教育の普及と振興、改善、こういうことが

非常に叫ばれて、この問題を強く取り上げてゐるわけですが、
ございますが、文部省と厚生省でもこの問題について昭和
三十八年十月二十八日に文部省初等・中等教育局長と
厚生省児童局長の連名をもらひまして、幼稚園と保育園
について通達が市長並びに教育委員会にきてゐるわけが
ございまして、こゝから精神にそつて私どもは幼稚園或
いは保育園の幼児教育というふうな問題に当たつて
ゐるわけがございしますので、こゝを中心として申し上げな
お答えにかえたいと思ひます。

先ほども一々、審議員さんがおっしゃいますように、幼稚園
というのは学校教育をほどこす場所である。

保育園は保育に欠けた児童の保育をする場所であ
るということ、幼稚園は大体文部省では四才児、
五才児を対象児に保育園の方はゼロから小学校

私ども教育委員会も特に保育園、保母さんの研究、研究修、部面では教育委員会に指導主事もおります。で、研究会なり講習会なり、会合を通じて保育園の保母さんたちにも一緒の機会を与えて、そういう保育園、幼稚園的な教育が十分行なわれますように提携をもうて、やっていきたい。こういうふうなことを考えるわけでございます。

保育の措置費、教材、教具の費用というふうなことにつきましても内容はよくわかりません。で、福祉事務所長さん、所管でございます。で、それらでお答え願いたいと思っております。

(福祉事務所長登壇)

福祉事務所長(鶴沢貫寛君) 御質問の中で保育所に
おける措置費、関係等についてお答え申し上げます。

おおせうとあり措置費の中には、保母人件費、保育する
ための保育費、給食費というふうな内容でございま
す。教材の費用というものは含まれておりません。

一かーながら、保育費の中に保育する場合に消耗品
的な教材費的なものは含まれていっているというように解釈
しているわけでございすが、大きな教材費、例えば、
遊具的なものは措置費の中に含まれておりないわけ
でございします。

従つて公立の場合には、そういう面の支出はいらないと思
いますけれども、私立の保育園の場合には、そういうに
経費の捻出のために欠乏からある程度が負担を
取っているというふうには聞いていっているわけでござい
ます。

一〇番（辻町実君）再質問いらないと思います。

第一点の問題は一番中心になるわけでございますけれども、助役さんは非常にきよいな言葉でもって今度の予算については特異性があるから、主要目的の達成のためであるから、ほかの面では、むを得ない。こういうことを言わねばなるわけでございます。特異性という点について、私はあまり特異性ではないということと指摘しないわけでございます。

今度の教育費の二六%ですか。こういう割合は大体県下全体の教育費の割合は大体二四・五%というものが、現在は通常でございます。

大きな学校の建設、市民センターの建設という場合がある。習志野とか、茂原、銚子、そういうところでも四〇%近いような教育予算が組まれてある。

そういう場合に私はほかに相当の寄せがいて、

特異的な云々ということが言われるのではないかと
いうふうに思うわけでございますけれども、市民センタ
ーの経費を入りましても、館山市の場合には、二六％で
すわ。その程度じゃない。これが、私は通常への経費で
はないか。従って教育費の中において、市民センターの分
を差し引いて、もうと一四％位に下つて、もう、
一四％に下つたということとは、非常に特異なケースであ
って、そういう点については、不健全ではないかというふ
うに思つてゐるわけでございます。

決算における歳出入動向という額をみても、そういう
ところへ傾向が見られる。

特に農林水産費、先ほども指摘いたしましたが、土
木費、教育費、この三点については、ほとんど横ばいでござ
います。

建設事業費部門につきましては、少く今年も多く
なっておりますが、市予算の中で占める割合は建
設費の伸び率が一番低いわけでございます。

館山市のものが三十五年を基盤にしますと二・四と
いう伸びに対して建設費については一・八、予算全体
の伸びよりずっと低い。三という点から見ても、私は
今年、年度に特に従来継続されてきたところ、
もうが盛らなというふうに考えておられない。そうい
う点について、私は何かちくはく、点があるのではないか。
この点について、当局は矛盾を感じておられないか。

現在、執行部においては、これが特異的な予算なのか、
その点についてどう思っていると言わなければならな
い。その確認をいたさない。この点について最初に
確認いたしておきたいと思っております。御答弁はど

とも願ひ申し上げます。

・市長職務代理者助役（小久武男君）先ほど落ちまいなが、市税が伸びが鈍化しておいて、交付税、こらう伸びがある。こらういうことでございますが、そうしておりでございます。と申しますのは、やはり館山市の低開発と申しますか、国からの援助によってバランスを取ってもらうという傾向は好ましくないわけでございます。市税が伸びて交付税が減つてもらうの姿が望ましいわけでございますが、そういう現実であることは、そうとおりでございます。

今年予算が非常に苦しい中で組まねたということ、を申し上げまいなが、市民センター一つ取りましても一億一千万という臨時支出がある。十億の中から一億一千万取つてもすでに九億白になります。

本年度の予算も正常な姿でいきますならば、二・三％
伸びる九億台が正常な姿ではないか。そういう特殊な
事情がある中で、二五％に伸びたというところでござい
まして、これは別にほかの操作も何もなく、現実、そういう
ことで伸びたというところから申し上げるがたいです。
今年、主として伸びたのでは人件費、三千七百万位、市民
センター一億一千七百万、房南中学校で二千二百万、商工観
光関係で一千万近く、これだけでも、二億結果的に見て
も、そういうことでございます。

一番特異なものとして申しますのは、市民センター、ほかの項目
につきまわしては、それ以外、先ほど申し上げましたように既
定予算の範囲内で従来予算の範囲内です。こ
うである。こういうことで歳入にも若干無理
があるのではないかと、いう予想がござえますが、努力

によつて解決し得るという自信のもとに編成した。
こゝういふふうにかえておる次第でございます。

一、番(辻田実君) そういふことなら結構でございますが、私が一番心配するのは、歳入の中でも、財産収入、諸収入、寄付金、こゝういふものが急激にふえてきておるといふことでもつて、二年続きの不健全性がある。こゝういふことでございますので、こゝういふ点については改善していただくまいことを要望して、こゝう点については打ち切ります。二番目、税外負担の面でございますけれども、こゝう面について、こゝ以上申し上げてもあれでございますので、あとは先ほど申しましたような傾向がある中で、こゝうに對して何らの対策も見られないわけでございますが、こゝで質疑しても、やむを得ない中で、予算の中で十分やりなれないと思ひます。ただ、今後、こゝうなものを

要求しないで、市の方で積極的にやっていた方がいい。

特に先ほど助役さんが、受益者負担ということを書いておられるんですが、土木とか衛生とか教育とか、公共的なものについて、特に教育については受益者負担というものはあり得ない。そういう観念は改善していただくというふうに考えております。

果ては、例えば負担金については、多少自主性を持っておるということでございしますが、今後大いに自主性を持っていただく。

最後に学校教育の問題でございしますけれども、先ほどより答弁で場合によっては暫定的な本道もやむを得ないのではないか、暫定ということはどういうことなのか、秀南中学校はあくまでも暫定的なものか、その点について、まずはっきりさせておかないところから回

わりのになりますので、その点についてもう少しくわしく
意味を説明していただきたいと思います。

市長職務代理者助役（小出武男君）嘉南中学校の具体的
な問題になつてきておりますが、二つ経過につま
してはすでに答さま。御承知でございしますが、非常に
急激にかわつて残す。残すためには、どうするかとい
うことで意見がまとまつたわけでございます。

私どもの方としましては、木造でよいとか、何でよいとかいう
ことはないわけでございまして、いつとなくきまつた案が木
造で早急に建てようという案にまとまつたので、木造
予算の關係で木造にしよう（これはまあないとい
いますか、残らも違わないわけですから、そこまでは、
極端に考えませんで、ただ、木造でも二十年かそ
こら持つので、その間にきて生徒もふえるだろうし、そ

ときに鉄筋ではないか。市内の學校を鉄筋化するに ついても二十年位はかかるだろう。その間に今申しまゝ暫定的ということになるんですが、木造にしておいて、その時点で或いは、その前にやつてもいいんですが、鉄筋の線に進めていくというこのう關係で、そう深く考えておりません。

一〇番(廿田実君) そうしますと、神戸小学校のときにあんなほど暫定でもいいやではないかという議員の方から、要望があつたわけでございますが、鉄筋でなければあり得ないという形があつたんですが、二うゝの問題について、統合審議会に大きなくるいささすわけでございますけれども、二十年をぞこら木造でも持つということになりますと、三枚葉というものが、修正されるわけでございますけれども、二うゝ木面について

二 自治 訓 令
統合審議会を開かされたか。開いて四校案に修正したうか。文教委員会にかける時間的余裕がなかつたうか。そこへ堅通についてあまりに教育問題について便宜的に考えるので堅通を少く、具体的に御答弁願いたいと思ひます。

・教育長（押本禧逸君）も答へたいと申します。学校統合問題にはきわめて長い先のことまで見通して計画すべき問題でございます。非常に慎重に取り扱うべき意味で統合審議委員の方にも願ひたわけでございますが、統合審議委員会では何校にするということは始めからまいまで、そういうお答えはいたしたか、なかつたわけでございます。どういうふうな基本的なことが必要であるかというふうなことに、御答申を最終的にいただいたわけでございます。そこで委員会

の中でいろいろ討議をいたしまして、なお、その途中では
審議委員会の方々にも聞きます。その他、立
場の方々にもいろいろと事情も聞いただけでございます
が、四校案ということが最終的にきまっただけでござい
ます。それについて改めて審議委員会にということはい
たしません。ただ、そこは委員会の方で考えるようにと
いうようなことも話して審議の過程の中ではいつてお
らう。最後まで何校案ということには触れない御答申
をいただいたわけでございます。

そんないきさつの中で誰んできいただけでございます。
以上申し上げます。

一。番（辻田実君）市長もいないことです。いすく市長が出
てきてからの機会ということでは、これでやめたいと思っていま
す。ただ、一点だけ、先ほど教育長と福祉事務所

長々答弁がかかり矛盾しているような気がします。
 というのは教育長の方では保育園についても四文見五
 文見につきまゝでは基準要綱というふうなものを指
 示している。そういう面では保育所においても幼児
 教育というものについてはある程度まかなわれておる
 のではないか。こういうことであるわけでございます。

福祉事務所長の方からは措置費ということでも多少
 需用費とかは含まれておるのではないかと。一カー措置
 費につきまゝでは四文見五文見になると措置費が
 少なくなる。本来ならば教育基準要綱というものを
 示してそれをやらなければならぬということになると
 予算がふえなければならぬ。こういうふうな思うわけ
 でございます。

三という形でやっているとすれば保育園に預けても教育が

でない。従つて越境入学という事で北条幼稚園・館
山幼稚園にということが出てくるのではないか。今後ニ小
を機会に特に幼稚園へないところの保育所については
備品教材費的なものを市内にある幼稚園と同じ
ような形でもって、それに近いあまり不均衡にならない
ような財源及置か取れないものか。そういう考えがあ
るのかどうか。二点について最後に質問いたしまして
打ち切りたいと思いますので御明解な御答弁をお
願ひいたします。

・福祉事務所長（鶴天女眞覚君）お答え申し上げます。

保育園に収容しております幼稚園に入る該当年令の
四才児・五才児、二小に対しては先ほども通達の中に
ありますように幼稚園教育要領によつて教育する
ことが望ましいということをお言わけておるわけでござい

ますけれども、保育園におきまして、公立の場合には、
 そうした線にそってやっております。私立の保育園に
 おきまして、そういう方針のもとにやっておりますけ
 れども、先ほども申し上げましたように、措置費の中
 は、そういうものは含まれておらないというために、公立
 の方は別でございますけれども、私立の方は、そういう
 費用の捻出に非常に苦慮をされているということかとい
 うわけでございます。

一か一ながら、各私立の保育園にも幼稚園ほどには
 いきませんが、ある程度、遊具・備品等も設備さ
 しておりますので、今後、そういう面で充実するよう
 私の方から指導も申しますが、公費から、そういう
 ものを出すということは、ちょっと今うところでは、でき
 ないというふうに考えております。

議長(田中祿郎君)以上によりまして、通告者、質問を終ります。

よって本日、會議はこゝにて散会といひます。

次会は三月二十二日午前十時開会といひます。

その議事は議案第三号乃至第九号、昭和四十二年度一般會計並びに特別會計予算案、質疑を行ないます。

午後二時三十分散会

本日、會議に付いた事件

一、議事日程に同じ

出席議員

吉田 勇治郎

鈴木 正一郎

小柴

孝

館石 伝蔵

田中祿郎

秋山天三郎

安西益男

止田実

石井正

志村信作

小沢恵太郎

黒川佐太郎

西村真次

藤田好治

保科忠夫

江田徳太郎

君塚喜三

中村省吾

島野茂樹郎

嶋田繁

山田教宇

鈴木市蔵

三沢節

山本昇

松本藤太郎

欠席議員

田村源治郎

望月照正

菊井敏博

関武夫

養生田

七

郡

安

藤

吉

安

澤

徳

順

高

橋

文

治

山

口

康

鎮山詩金

